



# 那須与一伝承館通信〈第15回〉

## 銅製鰐口(文和四年銘)

今回は那須与一伝承館が収蔵する資料の中から、銅製鰐口(文和四年銘)を紹介いたします。

本品は、那須神社に伝わる鰐口で、栃木県指定文化財となっており、現在、当館に寄託されています。鰐口は、寺社に懸けられた鐘の一種で、鼓面中央が撞座と呼ばれ、圏線によって内側から撞座区、内区、外区に区分されます。

表面外区には、「那須庄福原南金丸八幡宮大旦那藤原忠防并江州」、「文和二季乙未八月十五日 敬白」という銘が刻まれています。この銘文から、本品は文



銅製鰐口(文和四年銘)

和四年(一二三五六)八月十五日に那須氏の一族と思われる「藤原忠防」と「江州」(近江守)の二人が、同社に寄進したものであるとわかります。南北朝時代に「那須庄福原南金丸」(現在の太田原市福原、南金丸の辺り)一帯を領有していた那須氏は、「大旦那」(有力な支援者)として那須神社を信仰し、支援していたことが窺い知れます。

現在、この資料は那須与一伝承館において展示されています。ぜひご覧ください。

### 那須与一伝承館利用案内

- 開館時間  
午前9時～午後5時  
(入館は午後4時30分まで)
- 休館日  
・毎月第2・4月曜日(その日が休日に当たるときは、その翌日)  
・1月1日～3日  
※燻蒸や展示替えのため休館する場合があります。
- 入館料 大人 300円  
中学生以下 無料  
※団体割引あり

### 問い合わせ

TEL (20)02220  
那須与一伝承館

## 彫刻

### 市内で作られた作品とその作者

## 周遊 31

このコーナーは、「那須野が原国際彫刻シンポジウム」で公開制作、設置された作品とその作者を連載で紹介いたします。

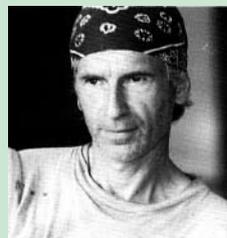
この作品は、ふれあいの丘の宿泊施設シャトー・エスポワールのすぐ西隣に位置する彫刻です。



石を使って「明確にシンプルで、そのままの作品を作ること」を作者は望みました。その言葉どおり、四角の枠という単純な構造ですが、それは加工しやすい木柱や鉄骨ではなく、硬く、一つ誤れば亀裂が生じたかもしれない石でできています。

フォルム ウヴェルト ダン アン ベイサージュ  
**FORME OUVERTE DANS UN PAYSAGE (風景の中の開かれた形)**  
フィリップ モンテル フランス 2001年

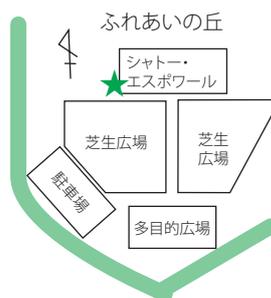
そして、その枠の中に、時には透き通った青空を、時には夕暮れのあかね雲を、時には光輝く芝生のじゅうたんを映し出し、四季折々に変化する巨大な風景画となります。「平和であり、誰もがふれあえること」—作者がこの作品に込めた思いです。



フィリップ モンテル 氏

作者は、1952年フランスのパリ近くにあるムラン市生まれのフィリップ・モンテル氏。1979年に同国北方のリール市にある美術学校、翌1980年には歴史的建築物修復学校を卒業した後、アメリカや日本の彫刻家のアシスタントなどを務め、1990年から日本で生活するようになりました。フランスの第3回国際彫刻シンポジウムのほか、茨城県岩間町(現笠間市)や岩手県岩手町で行われた彫刻シンポジウムにも参加しました。

### 設置場所案内図(★印)



### 問い合わせ

文化振興課文化振興係 TEL (23)8718